

令和 5 年 8 月 8 日

豊田市長 太田 稔彦 様

梅坪台地域会議
会長 鈴木 重久

答 申 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第1項の規定に基づき諮問を受けたことについて、下記のとおり答申します。

記

課題①活動に関する情報が届かない

(1) 「広報とよた」等での周知強化（特に高齢者への配慮強化）

＜現状＞

参加したい活動が、必ずしも自分の住んでいる地域にあるとは限らない。

＜取組＞

○豊田市全域の情報が掲載されている「広報とよた」などに、市内の各地域における様々な活動グループの情報一覧を掲載する。また、現在の広報とよたは、情報量が多く、文字も小さいため、高齢者にとって分かりにくい。対象が高齢者の記事を掲載する際は、情報を絞り、文字も大きくするなどして、伝わりやすくするよう配慮する。

○「健康」「ボランティア」「自治区活動」など分野別に活動を掲載するなど、高齢者に特化した、分かりやすいリーフレットを作成する。

(2) 日常生活で目に触れるところでの PR

＜現状＞

情報の取得方法が分からず、自分から情報を取得することが難しい市民もいる。

＜取組＞

○市民の目に触れやすくするように、スーパー、ドラッグストアや病院など、市民が普段から利用する場所に活動情報のチラシなどを掲示する。

○特に梅坪台地域においては、令和4年度に作成した梅坪台健康づくり計画や、令和5年度作成予定のうめつぼ健康づくりマップを配架し、積極的に周知する。

(3) 直接的なアプローチ

＜現状＞

回覧板や広報誌で情報を掲載しても、気付かない人も多い。

＜取組＞

○活動グループによる PR デーを設け、交流館や自治区の区民会館などを会場とし、それぞれの団体が直接 PR する機会を設ける。

課題②物理的な制約

(1) 移動手段の充実

<現状>

高齢者の免許返納の動きもある中で、活動に参加するための移動手段がない市民も多い。

<取組>

○移動が困難な方でも活動に参加できるように、共助による移動支援の仕組みを整備する。

○活動グループにおいても、公共交通機関の駅やバス停に近いところに活動場所を設定するなど、移動手段がない市民が参加しやすくなるよう配慮を行う。

(2) 参加手段の拡大

<現状>

家族の介護や自身の体調により、活動に参加したくてもできない状況の方がいる。

<取組>

○様々な状況の方でも参加できるように、活動グループにおいて、オンライン参加など、様々な参加手段を整備する。また、高齢者の中にはパソコンの操作が難しい方もいるため、市や交流館でパソコン操作研修などを開催し、サポートを行う。

課題③人間関係の問題・活動についていく自信がない・興味関心がない

(1) 企業や行政による後押し

<現状>

働いている時は、勤め先の人との関わりが中心になり、地域での知り合いができにくいため、定年後に社会参加しづらい雰囲気が出てしまう。

<取組>

○企業が地域活動などへの参加を後押しし（例・地域活動休暇などを設ける）、地域とのつながりの土台をあらかじめ作っておくことで、定年後も地域での活動に参加しやすくなる。

また、市においても、地域活動への参加を後押しする企業については、補助金等の優遇措置を行い、企業への積極的な働きかけを行う。

(2) きっかけづくり

<現状>

人付き合いが苦手で、多くの人と賑やかに活動することが肌に合わない方がいる。

<取組>

○人付き合いが得意ではない人も、まずは1人で外に出ることが重要である。外に出てもらいやすくするために、散歩中に休憩できる場所や日向ぼっこができるような場所を市で整備する。また、梅坪台地域で花壇や里山の整備を行っているわくわく事業の団体においても、積極的な活動を行う。

(3) 社会参加の目安の提示

<現状>

社会参加するように呼び掛けられても、「立派なことをしなければならない」などと感じ、尻込みしてしまう方がいる。

<取組>

○「この年代であれば、この活動（買い物・ゴミ出し・図書館に行く など）を推奨する」というような社会参加の目安を作成・提示し、社会参加のハードルを下げる。これによって、日々の習慣づけにつながり、最終的には介護予防や健康寿命の延伸につながる。

(4) 体験会の開催

<現状>

活動グループに参加したい気持ちはあるが、自分に合うかどうか不安で、参加への一歩が踏み出せない方も多い。

<取組>

○各活動グループで体験会を設け、自分に合うかどうか・続けられそうかを感じてもらい、参加へのハードルを下げる。

○交流館や自治区においても、活動グループに対して、体験会を設けるよう働きかけを行う。

(5) やりたいことの発信の場の提供

<現状>

自分にとって興味・関心のある活動がない。

<取組>

○交流館、自治区や市役所に、自分の趣味・コレクションの展示など、やりたいことを発信する場を設け、同じ趣味の人を見つけて、活動グループを作る。